

平成29年度 基本施策評価シート（部別）

基本目標	人と文化を育むまちの形成
基本方針	生涯を通じて学びあうまち
基本施策名	生涯学習の推進

	所属	職名	氏名
作成者	図書館交流課	課長	丸山 高人
評価者	教育部	部長	西村 康正

1 基本施策に対する基本姿勢

現状	三郷交流学習センターが平成30年3月10日にオープンし、本市の図書館を核とした交流学習施設の整備は終了しました。また、これらの施設が「情報センター」として質の高い機能を有することをめざし、図書館資料の充実や図書館司書の資質向上に努めています。
基本方針 (目指すべき方向性)	市民誰もが多様な学習機会を選択できるとともに、快適な学習環境が確保され、その学習成果が市民の心身の健康づくりに寄与し、家庭や地域に還元されることを目指します。 また、図書館は、市民の多様なニーズに応え、質の高い情報を提供できる「情報センター」を目指します。

2 施策指標

指標	単位	(設定時)	目標値	H27	H28	H29	達成率	進捗状況	所管課
生涯学習講座数(回/年)	回	136	150	105	97	129	86	停滞	生涯学習課
生涯学習受講者数(人/年)	人	19,971	21,000	21,547	30,558	21,391	101.8	順調	生涯学習課
図書館の年間利用者数(人/年)	人	391,140	440,000	379,225	414,307	419,914	95.2	順調	図書館交流課

施策指標の進捗状況と分析	平成30年3月に三郷図書館が開館し、市内5図書館の施設整備が概ね終了しました。平成29年度の実績は、95.2%と昨年より1%増にとどまりましたが、新三郷図書館の開館によりさらに利用者数の増加が見込まれます。
--------------	---

3 基本施策を構成する事務事業の評価

(単位：円)

No	コード	事務事業名	所管課	事業費					事務事業の状況					重点化		
				H27	H28	H29	H30	H31	合計	事業区分	新/継	終期	方向性		正規職員数	
1	0110625	交流学習センター等管理費	図書館交流担当		63,257,563	64,645,636				127,903,199	施設の管理運営	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	2.5	
2	0110635	三郷交流学習センター整備事業	図書館交流担当		566,329,400	650,457,265				1,216,786,665	ハード(継続)	継続	H29	現状のまま事業を実施することが適当	1	
3	0110790	図書館管理運営費	図書館交流担当		113,626,623	113,852,260				227,478,883	定型業務	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	1.5	
4	0110795	図書館資料収集事業	図書館交流担当		42,931,093	46,288,380	46,744,000	38,106,000		174,069,473	政策的業務	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	0.5	○
5	0110800	図書館サービス事業	図書館交流担当		4,013,004	4,560,844	5,160,000	5,956,000		19,689,848	政策的業務	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	1.5	○
合計					790,157,683	879,804,385	51,904,000	44,062,000		1,765,928,068						

事務事業量とコスト(費用対効果)の分析	第2次図書館基本計画策定における市民・利用者アンケートでは、「自動貸出機の使いやすさ」「予約・リクエストサービス」「職員の接遇」などで高い評価をいただきました。また、本市の平成28年度の市民一人あたりの貸出数は8.0冊で塩尻市(9.7)に次ぎ県下19市で2番目となっています。また、一人あたり蔵書数は、4.2冊であり、19市では12番目となっています。貸出数を蔵書数で除した図書の回転率は、193%で小諸市に次ぎ2番目で、効率的な運営であると考えています。
重点化事務事業の考え方	第2次図書館基本計画に基づき、市民が生涯学習を進める上で、質の高い情報を提供できる「学習センター」「情報センター」「文化センター」としての図書館の充実を図ります。また、子どもから高齢者まで、本と触れ合う機会を増やすとともに、市民と市民が、本を通して出会う機会の充実を図ります。
縮減・廃止事務事業の考え方	市民の財産である図書館資料について、市民への有益・有効な提供を図るため複本の持ち方や収集方法などを定める「安曇野市選書の在り方ガイドライン」を見直し、効率的な資料収集を進める必要があります。
総合評価(次年度へ向けた課題の抽出)	複合施設である市の図書館の特徴を生かし、交流学習施設と連携した図書館サービスを提供するとともに、地域性を生かした、特色のある各図書館の蔵書、運営を図っていく必要があります。

平成29年度 基本施策評価シート（部別）

基本目標	人と文化を育むまちの形成
基本方針	文化を学び育むまち
基本施策名	芸術文化活動の振興

	所属	職名	氏名
作成者	図書館交流課	課長	丸山 高人
評価者	教育部	部長	西村 康正

1 基本施策に対する基本姿勢

現状	公開オーディションで選考された方によるコンサートを交流学習施設で開催したほか、市や教育委員会主催で行うコンサートの演奏者として紹介し、演奏の機会の拡大に努めています。また、市内及び近隣在住の作家と連携し芸術文化活動の振興を図っています。
基本方針 (目指すべき方向性)	郷土の歴史的・文化的遺産や伝統文化、古文書などを保存・継承し、それらを活用して創造的な芸術文化活動が活発に行われ、特徴ある芸術文化を全国に発信できるまちを目指します。

2 施策指標

指標	単位	(設定時)	目標値	H27	H28	H29	達成率	進捗状況	所管課
芸術・文化講座などの参加者数（人・年）	人	12,243	12,500	14,382	14,844	14,721	117.8	予定以上	文化課
美術館・博物館などの入場者数（人・年）	人	57,967	65,000	58,848	78,096	58,577	90.1	停滞	文化課
芸術・文化活動者数（人/年）	人	3,031	3,200	2,656	2,733	2,787	87.1	停滞	文化課

施策指標の進捗状況と分析	
--------------	--

3 基本施策を構成する事務事業の評価

(単位：円)

No	コード	事務事業名	所管課	事業費						事務事業の状況					重点化
				H27	H28	H29	H30	H31	合計	事業区分	新/継	終期	方向性	正規職員数	
1	0110630	交流学習センター等事業費	図書館交流担当		5,409,692	6,653,005	5,588,000	5,588,000	23,238,697	政策的業務	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	1	○
合計					5,409,692	6,653,005	5,588,000	5,588,000	23,238,697						

事務事業量とコスト (費用対効果)の分析	映画上映会、コンサート等の自主事業及び松本大学委託事業で開催しました「親子プログラミング教室」でのアンケート結果は「良い」以上が8割で高評価を得ることができました。各施設での事業を穂高交流学習センターで一元的に企画することで、他の交流学習施設職員の事務量の軽減及び広報物等の作成効率が上がりコスト削減が図られるため、効率的な運用ができていると考えます。
重点化事務事業の考え方	市内を拠点に活躍したい若手演奏家の発掘、作家の成果発表の場を提供することで、芸術家等の育成及び芸術文化振興となり、今後も継続的な事業の開催が必要です。
縮減・廃止事務事業の考え方	穂高交流学習センターに集中して事業を企画することで、他の交流学習施設は施設管理の事務に専念できるため、コスト削減となります。アンケート結果を踏まえながら、市民の意識やニーズを把握し事業内容の充実を図ります。
総合評価 (次年度へ向けた課題の抽出含)	自主企画事業や市民活動の支援をとおして、芸術文化の振興を図ります。なお、事業の企画にあたっては部内各課との事業の重複を避けるため、内容の精査・調整をする必要があります。